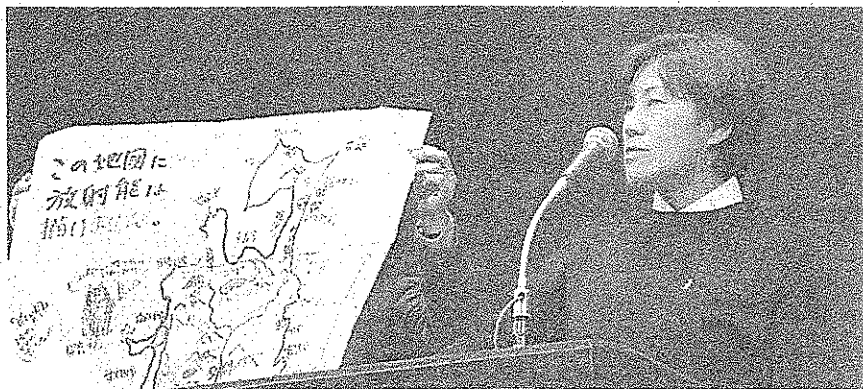


「伝えない現状を学んで」

東京電力福島第一原発の事故の教訓を生かそうと、「3・11メモリアルアクション」原発のない新しい福井へ」が9日、鯖江市文化センターであった。県内外から約750人（主催者発表）が集まり、福島からの避難者らの話に聴き入った。

鯖江で集会

県内の反原発団体などでつくる「さよなら原発福井県集会2014実行委員会」の主催。集



原発事故「大丈夫」警戒を

福井↔福島 声つなぐ

会では「福島からの訴え」として、原発事故で福島県富岡町から水戸市に避難している木田節子さんⅡ写真Ⅱが、福島県内で甲状腺がんの発症者が増えていくという現状を報告。「福島では『ここで生きていかなければならない』と、スピーディーにいろんなことが決められている。この国が伝えない、いまの福島のことを学んでほしい」と呼びかけた。

事故が起きるまで福島県で農業に取り組んでいた元宇宙飛行士の秋山豊寛さんは、事故後すぐに放射性物質が拡散している事実が県民に知らされなかったと振り返った。「ああいう事態が起きたら、国や県はまず秩序の維持を考える」と指摘。「若狭湾で何か起きれば、『大丈夫だ』という言葉で（地域に）閉じ込められるだろう」と忠告した。

脱原発を掲げて昨年の参院選で初当選した山本太郎氏は「福島原発事故のけじめをつけなければいけない。民主的にひっくり返すには、選挙しかない」と訴えた。

この後、参加者たちは反原発を訴えて鯖江市内をパレードした。（堀田浩一）

京都 大飯・高浜の廃炉を ■ 金沢 志賀再稼働に反対

関西電力大飯、高浜両原発の半径30キロ圏にかかる京都府舞鶴市でも9日、「3・9原発ゼロをめざす京都北部集会」があり、市民ら約600人（主催者発表）が参加した。

京都市在住で脱原発市民団体代表のアイリーン・美緒子・スミスさんが「何十

年も原発（の新設）を止めてきた人々、問題提起を続けてきた人々の努力のおかげで、今の日本は原発がゼロになっても社会が機能している」と述べた上で、「再稼働を許せばせっかく開きかけた省エネルギーや再生可能エネルギー中心の社会への扉を閉ざすことになる」と両原

発の廃炉を訴えた。

大津市でも同日、「原発のない社会へ2014びわこ集会」があり、約1千人（主催者発表）が参加。金沢市でも北陸電力志賀原発の再稼働反対などを訴えて約300人が集会を開き、デモ行進した。